

自然保育推進事業 活動報告書

団体名：認定こども園みどりがおかようちえん

今年度の活動概要：

●環境構成に関すること…築山の制作

令和4年度は築山を2つ制作した。そのうち1つめの築山は、自然保育の観点からも重要な変化があったため、ここでその内容について報告する。

※厳密には制作時期は令和3年度だが、3月28日という本当に最終盤であり、造ったのちの影響や変化が現れたのは当然4年度に入ってからなので4年度に含めて考えることとする。



以前から園には、真砂土で作られた築山があった。これも子どもたちの遊びを間違いなく豊かにしてくれた存在であることは間違いがないが、やはり真砂土ならではの固い砂の粒によって肌を擦

りむきやすい部分があった。かさねて近年の大雨により表面が洗われ、下に埋まっていた大き目の石も露出してきており、より危険性が増していた。上写真に見える山頂の人工芝はそれを隠すためのものである。こうした点が、保育者に子どもたちを思い切りこの山で遊ばせることに不安を抱かせる要因となっていた。

また、当然ながら写真のとおり裸の山なので、虫などが来ることもなく、自然とのふれあいの意味でも改善が望ましかった。裏手のほうに低木を植えたり、雑草を移植したりという工夫はしていたが（昨年のレポート参照）、実際に根付いて子供たちが自由に遊べるレベルまで持っていくためにはなかなかハードルが高く、思うようには緑を増やすことができないでいた。

3年度途中から環境整備の指導に入っていた木村歩美氏の指導のもと、既存の築山の上に、黒土を入れた土のう（草の種が仕込まれている）



を敷き詰め、また二段式の構造に変えることになった。黒土を選んだ理由としては、主としては木村氏の指導によるものであるが、やはり最も大きいのは「擦りむきにくい」という点である。

上で転んだりすべったりしても、目の細かい、ふかふかさの強い黒土であればケガをする可能性は低くなる。また二段式にしたのは、これも以前の木村氏の指導例を参考にしたものだが、間に横への動線を組み込むことで、子どもの動きを二方向にし、築山の空間での遊びを広げることができると考えたからである。

そしてもちろん、種が仕込まれた土のうにより、これまで山になかった草を生やし、虫などを呼び込んで子どもたちの自然に触れて遊ぶ体験を充実させることが大きく期待された。

制作に関しては園職員のみではなく、保護者を含めたワークショップという形でおこなった。自分たちの手を動かし、体を使ってつくることで対象への愛情が生まれ、園職員は改善点や修繕点を見つける眼ができ、保護者は遊びへの理解を深める視点が生まれることを意図した。保護者参加の行事は過去にもあったが、園庭整備に関して保護者へお手伝いを呼びかける試みは初めてだったため、どのくらい集まってくれるか不安もあったが、蓋をあけてみれば大変たくさん保護者が当日集まってくださった。「子どもたちのよりよい環境のために何かしてあげたい」という保護者の思いを目の当たりにしたように感じ、むしろ園が保護者のポテンシャルを低く見過ぎていたのではないかと考えさせられた。



左写真はできた翌日。右は夏の様子である。土のうに仕込まれた種から草が伸び、青々とした山になった。草の種類自体はさほど虫を呼びこむものではないが、草の下にダンゴムシをはじめとした小さな虫が住み着き、また隠れ場所が増えたことでカナヘビも潜むようになり、子どもたちは大喜びで捕まえたり、追いかけていたりしていた。

秋～冬に草が枯れると、黒土の色や粘質を面白がる子どもたちに山が掘られてしまい今年は上写真のように全体が青々とまではなっていないが、今年はヨモギなど土のう以外の雑草の種がいくつか根付いており、今後の雑草の繁茂が期待される。また頂上の平面部分にはシマトネリコの幼木を植えた。これから山が成長し、よりよい自然環境となっていくことが楽しみである。